

SUNSTAR

財団法人サンスター歯科保健振興財団主催

全身の健康、糖尿病と口腔の
健康に関する日米専門家パネル
合意書

2008年7月19-20日 軽井沢 日本

ごあいさつ

軽井沢2008会議「全身の健康、糖尿病と口腔の健康に関する日米専門家パネル・合意書」を発表するにあたり、参加された各専門家の新知見と創造的な討論ができましたことに、親愛なる敬意を表します。全身と口腔の健康に関する関連性について、医学と歯学が問題を共有化し確認されたことは、口腔保健の推進において画期的なことであると確信いたします。

軽井沢2008会議の主催にいたる道程では、長年にわたり口腔保健への真摯な思いに導かれてきました。サンスターは1946年、歯磨では初めてとなる「薬用歯磨」を発売しました。この時より、オーラルケアの基本は「口は全身の健康を見せる」そして「口は全身の健康に影響する」との信念を持ち続けて来ました。

当時、世界のオーラル・ケアの先頭に立った歯磨は世界で発生率が上昇を続けたムシ歯の予防を意図した製品であり、世界の多くの歯磨はこのクレームを追随しました。しかしながら、長年を経過しても一向にムシ歯の発生率は衰えず、さらに加えて歯周病の罹患率は増加の一步をたどっておりました。

これら口腔疾患に対しては口腔科学の発達とその解決の道に課題が隠されていると想定されます。サンスターは、更なるチャレンジを目指し1958年には研究所に最新鋭の赤外分光光度計など分析装置を導入し、動物実験棟などを備えて、世界の歯磨を集め徹底的な化学分析と生物学的評価を進めました。

世界の歯磨製造者の取組みは、ムシ歯の原因となる感染菌を抑制し、或いは出血した歯ぐきの炎症を静めるなど、局所の一時的な処置に対応したものでした。サンスターでは、口腔と全身の健康の関わりに課題はないか尋ねて、1955年代に口腔科学の先端にあるアメリカなどの独創的な研究者、科学者を訪ねて回り世界の科学者と情報交換をすすめ、口腔衛生の在り方を探りつつ現実的な商品設計に力を注いできました。

この歴史を経て、サンスターは、1986年に歯周病の学術会議では日本でも初となる国際シンポジウムを神戸にて開催しました。さらに、1997年には第4回国際シンポジウム「歯周病と健康との関わり-歯周医療への新たな指針-」を開催し、ようやくサンスターの求めてきた口と全身の関わりを学ぶことの意義を訴えることになりました。

そして(財)サンスター歯科保健振興財団は、医学界、歯学界、健康管理機関の専門家により「口腔の健康と全身の健康に関する合同会議、歯周病:健康政策に向けて」をスイス・ジュネーブにおいて開催しました。初めて口腔の健康と全身の健康の関わりが包括的に討議され、世界の数多くの新知見が発表され、「歯周病と糖尿病、歯周病と心臓疾患、歯周病と早産・低体重児出産」など多面にわたりました。この会議で口腔の健康管理が全身の健康に貢献できる大きな可能性が示されたことに大きな意義があるものと考えます。

軽井沢2008会議の開催は、その途上にあつて新しい行動計画を論議するステージを意図して開催されたことに重要な意味を持つと考えます。今日、生活習慣病としての歯周病、さらに糖尿病合併症としての歯周病も論議となりました。新しい知見の拡大は、全身と口腔の関連において栄養学の面から要因として検討されたことも意義が大きいと思います。本合意書が広く医学、歯学、健康管理専門家によってご理解とご支援を頂けるものと確信いたします。

新たな行動計画はこれらの要因への効果的なアプローチとして医科、歯科の連携をどのように推進するか討議されました。今後さらに「肥満・糖尿病と栄養」、さらに「糖尿病と口腔保健」に関するテーマについて、ハーバート大学医学部附属ジョスリン糖尿病センターを中心にした教育プログラムの開発をすすめ、セミナーなど有効な取組みを進めます。

(財)サンスター歯科保健振興財団は、軽井沢2008会議の意義と合意を深く理解しその着実なる推進の一端を担い、参加する誇りと決意を持って当初の理念である「人々の健康の増進と生活文化の向上」に貢献いたします。

財団法人 サンスター歯科保健振興財団 理事長
金田博夫

全身の健康、糖尿病と 口腔の健康に関する 日米専門家パネル 合意書

全身の健康、糖尿病と口腔の健康の専門家パネルの日米メンバーである我々は、2008年7月19-20日に日本の軽井沢に集い、口腔と全身の健康の関係について医学的、歯学的、社会的、行動的観点から検討、討議した。以下この会議を『軽井沢2008会議』と称する。

先立つ2002年12月5-6日にスイス・ジュネーブにて開催された「口腔の健康と全身の健康に関する合同会議、歯周病：健康政策に向けて」においては、口腔と全身の健康相互の関連性が報告され、口腔の健康が全身の健康と安寧(ウェル・ビーイング)には欠くべからざる要素であることが認識された。

軽井沢2008会議において専門家パネルは、医科と歯科の両観点からその後の科学的知見を再調査し、口腔と全身の健康の関連性をより深く検討した。専門家パネルは、食事や栄養的要素が肥満、糖尿病、および全身の健康に作用するメカニズムに言及した最近の基礎的、臨床的研究を特に重視した。また、糖尿病と歯周病の相互作用に言及した広範な研究成果も紹介され、このことは食事や栄養的要素が、糖尿病のような全身的な障害や口腔疾患に直接的、間接的に影響する可能性を示唆している。さらなる研究を進め、口腔と全身の健康の生物学的な関連性から臨床的な意義を見出すためには、あらゆる面で医科と歯科との連携を強化する必要があるとの合意に至った。

この軽井沢2008会議で得た知見をもとに、専門家パネルは栄養/糖尿病/歯周病研究と臨床応用に新たな局面と機会を切り開きうる目に見える行動計画を策定することを約束し、上記の目標を達成することにより、日米のみならず世界の人々のたゆまざる健康の増進に貢献したいと望む。

I . 口腔の健康と糖尿病予防に関する視点

1 背景

世界の多くの人々の食習慣と栄養摂取状態は、この数十年間大きく変化してきた。日米をはじめとする多くの先進国では、寿命の延伸によって人々の平均年齢も上昇している。このような変化の大きな結果として、糖尿病患者、特に2型糖尿病患者の絶対数、相対数ともに警告すべき割合で増加している。世界保健機関(WHO)は2025年には糖尿病患者が3億人を超えると予測しているが、現在の動向からみるとこの

人数を超えると推測される。糖尿病と口腔の健康と歯周病に生物学的関連性があると考えられるため、今後科学的な対処法が見つからなければ、糖尿病のみならず歯周病を含む合併症も将来悪化すると考えられる。このような認識に立って専門家パネルは、口腔と全身の健康の相互連鎖に関する今後の研究の方向性とその臨床的意義を探った。

2 2型糖尿病と歯周病進行

2型糖尿病と歯周炎との相関性を明らかにする疫学データが紹介された。さらに医科と歯科の研究者ら双方から出された、歯周病が血糖コントロールに影響を及ぼし、そのことによって糖尿病患者の合併症の進行を悪化させる可能性を示唆する

新たな証拠についても専門家パネルは検証を行った。また、歯周病と2型糖尿病に罹患している患者は、その双方に対処する治療によってより有効に治療しうるとするデータについても検討した。

3 糖尿病と口腔疾患に関する複合的関係を研究する ～腸内細菌叢への興味～

糖尿病の発症には様々な要因が関与しているが、中でも長年にわたる栄養摂取状態と遺伝体質はとりわけ重要だと思える。米国のピマインディアンの例のように人種差によって糖尿病感受性に変化が認められることから、遺伝的要因の影響は明らかである。遺伝と栄養パターンの相互作用により、糖尿病に独特な小腸細菌叢へと変化する可能性を示唆する

興味深い知見も示された。歯周病の場合も、食物摂取、遺伝、細菌叢の複合的な関係を考慮すべきかもしれない。もしこのような関係が病因として重要であることが確認されれば、食事や生活習慣の変容を促すことが将来人々に対し、重要かつ長期的な健康利益をもたらすかもしれない。

4 歯周病重症度と全身疾患に関する介入試験の必要性

中等度から重度の歯周感染症が他の全身状態、特に心血管疾患や早産・低体重児出産リスクに関し悪影響を及ぼすことを示唆する研究知見も紹介された。これらの関係を支持するデータは増加しているが、一方で疑問視する知見も存在する。

結論的に言うと、これらの関係を科学的に解明するためには、より信頼性の高い大規模前向き調査、メカニズムの研究や介入研究を更に実施する必要がある。

II. 医科歯科連携を目指して

5 連携に関する国別特殊性とグローバル化への対応

医科と歯科の専門家間でより高頻度かつ高レベルの協力が必要であることが、専門家パネルによって繰り返し強調された。直接患者に対応する現場レベルでの医師-歯科医師連携の強化を支持する多くの事例が紹介された。しかし、国によってまた、専門家の規範や患者への対処法を規定する各国の伝統によって医師-歯科医師連携の進化は異なることも専門家パネルは認識した。これら既に存在する相違を尊重する一方で、

科学知識の急速なグローバル化による高品質なヘルスケアの提供も求められている。したがって、医科歯科の専門家界においては、それぞれが直面する問題を理解した上で協働して問題の解決に当たることが重要である。同様の考え方から、医科歯科連携を促進するための議論を政府、大規模なメディア組織、患者、財団あるいはNGOとともに進めることも重要であり、きわめて生産的な結果を生む可能性がある。

6 ジョスリン・サンスター糖尿病教育計画の推進

医科歯科両分野におけるリーダー的存在の臨床家を対象とした、専門的生涯教育の重要性についても討議された。この種の具体案として、2008年後半から2009年にかけて日米で数回にわたって企画されている

「ジョスリン・サンスター糖尿病教育計画（JSDEI）」の最初のセミナーが準備中であることが専門家パネルに報告された。

7 若手研究者育成のための奨学金制度

研究、臨床両面の連携環境を強化し、また、この試みに研究者と臨床研究者を誘い込み育成するために、質の高い教育訓練奨学金制度を創設することが提案された。特に糖尿病/歯周病/栄養の研究と臨床に焦点を当てた奨学金制度の概要案がサンスター歯科保健振興財団から提示された。専門家パネルはこの提案計画に対しきわめて前向きに評価することを確認した上で、次の諸点を考慮するよう促した。即ち、この

計画の目的についてより広範に討議すること、対象者への奨学金額について他のケースを調べてみることに、最低限必要な資格要件をより明確に規定すること、奨学金を出す候補者と教育訓練候補機関（日本、米国、両国）について合意することである。さらに、このような事業では通常、制度の立ち上げと運用を助けるのために、小規模で質の高い諮問委員会が監督するという点についても専門家パネルから指摘があった。

8 医科・歯科間の患者情報共有化の促進

臨床の場においては、医科歯科双方のケアプロバイダーが患者の糖尿病および歯周病の状態を十分に把握する必要がある。患者の臨床情報が、医科歯科双方のケアプロバイダーから閲覧できる患者記録に載っていさえすればこれは可能であるが、そうになっていないことが現時点での大きな障害であること

が確認された。電子カルテ化への国際的な動きが進めば、この問題を再検討する小さな突破口の機会になるかもしれない。医師と歯科医師がそれぞれに、用いている異なる専門用語を双方が理解し合わない限り、患者記録の共有化は難しいことが指摘された。

9 人民啓発活動への健康関連ウェブサイトの活用

口腔と全身疾患を予防するために、インターネット上で芽生え新たに拡大しているソーシャルネットワークシステムの活用可能性を探るべく努めるよう専門家パネルは推奨した。人々の膨大な健康探索行動については既に、現在運用されているほぼ無制限ともいえる健康

関連ウェブサイトが利用可能である。人々の自己学習や唱導(アドボカシー)において、今後インターネットが持つ役割の重要性がますます大きくなることは疑う余地がない。CGM(Consumer Generated Media)のようなソーシャルネットワークがその参考例である。

参加した専門家(アルファベット順)

氏名	場所	所属
ロバート J. ジェンコ	Buffalo NY, USA	ニューヨーク州立大学バッファロー校名誉教授、副学長
石川 烈	Tokyo, Japan	東京医科歯科大学大学院名誉教授、東京女子医科大学客員教授
和泉 雄一	Tokyo, Japan	東京医科歯科大学大学院教授
C. ロナルド カーン	Boston MA, USA	ジョスリン糖尿病センター副所長、ハーバード大学医学部教授
柏木 厚典	Shiga, Japan	滋賀医科大学医学部附属病院 病院長
春日 雅人	Tokyo, Japan	日本糖尿病学会前理事長、国立国際医療センター 研究所長
ジョージ L. キング	Boston MA, USA	ジョスリン糖尿病センター研究担当副所長、ハーバード大学医学部教授
村上 伸也	Osaka, Japan	大阪大学大学院歯学研究科教授
大久保 満男	Tokyo, Japan	日本歯科医師会会長
ジョン W. スタム	Chapel Hill NC, USA	ノースカロライナ大学チャペルヒル校殊勲教授
鶴巻 克雄	Tokyo, Japan	FDI国際歯科連盟元会長

サンスター歯科保健振興財団からの参加者

氏名	場所	役職
金田 博夫	Osaka, Japan	理事長
宇山 徹	Osaka, Japan	専務理事
山本 洋一	Osaka, Japan	専務理事
金田 真弓	Ecublens, Switzerland	理事

財団法人 サンスター歯科保健振興財団*
<http://www.sunstar-zaidan.org>

*1977年に設立された「サンスター歯科保健振興財団」は、2011年に公益法人改革関連法令(2008年2月施行)に従って『一般財団法人 サンスター財団』として新たにスタートし、今日に至っています。
 現在のURLは、<https://www.sunstar-foundation.org/> です。